



赤い羽根共同募金の助成により作成

聞こえにくい人が 困らないために

医療編

発行日 2021年2月1日

発行 小郡要約筆記の会「たなばた」

責任者 会長 柳 佳代子

聞こえにくい人が 困らないために

医療編



発行

小郡要約筆記の会「たなばた」

も く じ

はじめに	3
聞こえにくい人の特徴	4
話し方の工夫	6
筆談(書き方)のポイント	7
アンケートに対する回答から 良かった例・困った例	8
配慮の例	10
「たなばた」出前講座の案内	11

は じ め に

医療現場で働いておられる皆さんは、聴覚障がいをもった方の対応に戸惑われたことはありませんか。特に、必ず手話を必要とされているろう者ではなく、中途失聴・難聴者、高齢難聴者は、聞こえの程度も発語の具合も個人により全く異なります。ですから、同じ方法では、人によってコミュニケーションがうまくいかない場合もあると思います。

私たち小郡要約筆記の会「たなばた」は、小郡市で産声を上げて以来20年間、中途失聴・難聴者との交流や支援を通じて、スキルを積み重ねることができました。今回はその中でも、多くの人が利用する医療現場に絞って、かわりのあることを冊子にまとめました。

この冊子が、聴覚障がい者にとっても、また、医療関係の皆様にとっても、戸惑い解消の一助になることを願っております。

聞こえにくい人の特徴

1 外見ではわかりにくい

- 補聴器や人工内耳をしていても、髪で隠れて見えないことがある。
- 発語がはっきりしている。
- 1対1なら会話ができる。



2 言動で気づく

- 話し手のほうに耳を傾ける。
- 口元を見ている。
- 何度か尋ねる。
- 人の様子を見て行動している。
- 尋ねたことと、違う返事をしているときがある。

※環境や体調により聞こえにくさは変わる



3 発語の明瞭度

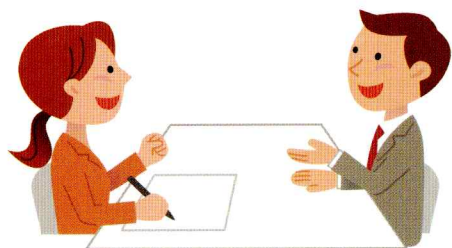
- 生まれつき聞こえにくい人と人生の途中で聞こえにくくなった人(高齢難聴者含む)では、明瞭度に差がある。

4 受容の程度

- 聞こえにくくなった当初は、聞こえにくいことを周りに言えない。
- 筆談してほしいと言える人と、言えない人がいる。
- どれくらい聞こえているか、自分でもわからない。

話し方の工夫

- ①話しかけるときは、相手が見ているのを確認してから話す。
- ②1音ずつではなく、ゆっくり、2～3文節ずつ話す。
- ③少し大きな声で話す。
- ④通じにくいときは、言い換え・ジェスチャー・反復するなど工夫してみる。
- ⑤ホワイトボードやメモ用紙に書いて伝える。
パソコンに入力して伝える。
- ⑥音声認識ソフトを使う。(表示文字は大きめに)
- ⑦指向性のあるスピーカーを使う。

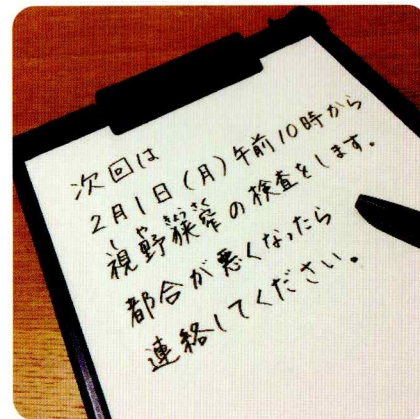


筆談(書き方)のポイント

表情を見ながら

- ①大きく はっきりと。
- ②短い文で、わかりやすく。
 - 日時等は具体的に。
 - AM・PMより午前・午後で表記を。
- ③記号・矢印・絵を使う。
例) 問診票記入→問診→身長・体重・血圧測定
- ④必要なときにはふりがなを。(特に専門用語)

筆談例



アンケートに対する回答から 良かった例

- 順番が来た時に呼びに来てくれた。
- 近くに来てゆっくり丁寧に話してくれた。
- 文節で区切ってゆっくり話してくれた。
- マウスシールドの着用で、口の動きがわかった。
- 説明の文章を指しながら確認してくれた。
- 聞こえないことを事前に伝えていたので、紙に書いてもらえた。
- パソコンに入力して説明してくれた。
- 手話通訳・要約筆記に理解を示された。
- 「耳マーク」が設置してあったので、筆談をお願いしやすかった。

小郡市社会福祉協議会
ボランティア情報センター
掲示例



アンケートに対する回答から 困った例

- 呼び出しがわからない。
- 受付から申し送りがされていない。
- 診療の流れがわからない。
- ブザー音が聞こえないので、検温が終わったのがわからない。
- マスクの着用で、ことばがはっきり聞き取れないので、話の内容がわからない。
- 薬の飲み合わせ、食べ合わせ等、細かい注意事項がわからない。
- ろう者と間違われて、難聴者に対してもまったく声を出さない人がいる。
- 聞こえないと言ったら、耳元で大声で話された。
- わからないことがあったが、質問できなかった。
- 検査での動作のタイミングは、口頭で指示されてもわからない。

配慮の例

- 耳マークを設置する。
- 希望者に耳マークカードを配付する。
- 受付から見えるところで待つように伝え、直接呼びに行く。または、呼び出し器を準備。
- 受付番号を表示する。
- 筆談ボードを設置し、筆談する。
- 音声認識機器を設置する。
- 問診票を分かりやすい言葉にする。
- 問診票に、必要な配慮の記入欄を設ける。
例) 「大きい声で話してほしい」「筆談してほしい」
- カルテに耳マークを貼る。
- カルテをはさむクリアファイルを、健聴者とは違う色にする。
- エックス線検査のときは、窓越しに表示するか、打ち合わせをしておく。
- 診察・検診の流れを書いておく。できれば図入り。
- 血圧等の結果は、紙に書いて渡す。
- 注意事項は具体的に書く。
例) 日時、薬の飲み合わせ、食べ合わせ

「たなばた」出前講座の案内

「聞こえのサポーター講座」

- 1 聞こえについて
- 2 コミュニケーションの方法
- 3 話し方の工夫・合理的配慮
- 4 難聴者から学ぶ
- 5 筆談をするときのポイント
- 6 筆談体験 など

時間は相談に応じます。



申込先 小郡要約筆記の会「たなばた」

事務局 土田 孝子

Eメール icg43932@nifty.com